



協議体レポートに掲載された那須塩原駅周辺の未来予想図(鳥瞰パース)  
駅から新庁舎までが水と緑によってつながり、民有地を含め、人を中心とした  
ウォーカブル\*な空間へと再編される様子を描いた。  
\*歩きたくなる・「walk(歩く)」「table(できる)」を組み合わせた造語



特集  
**まちを歩く。未来を描く。**  
—協議体レポート公表と未来を語るフォーラムへ—  
▶問い合わせ 那須塩原駅周辺整備室 ☎0287(73)5175

● Scene1 那須塩原駅西口から望む景観  
「駅を降り立ったときの山並みが印象的」という多くの人の声を元に、眺望や那須の  
空気感を堪能する人々の情景が描かれている。  
※本特集で掲載しているパース図は、地権者や関係機関との協議に基づいたものではありません。

## 3つのビジョンをもって様々なアイデアを出し合った まちづくり協議体の議論の軌跡



協議体の会議では、毎回のように駅  
周辺エリアの図面を囲み「もし自分  
がこの場所に立ったら？」を念頭に  
グループでアイデアを出し合いました。  
議論にあたって重視したのは、  
3つのビジョンです。



那須塩原駅周辺まちづくりに関する具体的な方策など  
を検討する組織として令和6年3月に立ち上がった「那  
須塩原駅周辺まちづくり協議体」の議論結果をとりまと  
めたレポートが公表されました。このレポートは、官  
民双方でまちづくりを進める際の指針にするほか、9月  
に開催を予定しているフォーラム(5ページ掲載)の題材  
としても活用していきます。



▲協議体レポートは  
こちら

## 未来を変える? 未来を描く協議体の議論経過をとりまとめ

那須塩原駅西口が車のロータリーを中  
心にした従来の姿を脱ぎ捨て、歩行者が  
主役となる「世界でここにしかない駅前」  
へ。そんな未来像を描いた『那須塩原  
駅周辺まちづくり協議体レポート』が7  
月16日に公表され、同日、協議体の座長  
を務める吉成伸一氏(東那須野地区ふれ  
あい推進協議会顧問)から、渡辺市長に  
手渡されました。

レポートをまとめたのは、市民や民間  
事業者25名で構成する那須塩原駅周辺ま  
ちづくり協議体。このレポートは、令和  
6年3月から令和7年6月までの1年4  
カ月、全体会4回とワーキンググルー  
プ3回を重ね、駅周辺エリアの可能性につ  
いて議論した一つの成果です。レポート  
には、緑とにぎわいの回遊動線が描かれ  
た鳥瞰パース(3ページ上部)、山並みを  
望む駅西口(2ページ上部)、人が自由に  
たたく東那須野大通りや、自然と共存  
するオープンスペース(4ページ上部)な  
どが掲載されています。

これらは、まちづくり協議体の会議で  
出された様々な意見を未来のまちのシー  
ンとして描いたもの。住む人・来る人  
にとっての居場所となる、未来に向けたま  
ちづくりに、官民連携で取  
り組んでいきます。



▲協議体の会議  
状況はこちら

環境・福祉・多様  
性に本気で取り  
組むエリアをつ  
くる

アートやスポーツといった自由  
な振る舞いを受容しながら、多  
様な人が集う場づくりを通じて、  
独自性をもち、持続的なまち  
づくりへ向けた駅周辺エリア  
づくりを官民連携で進めていき  
ます。

日常的に人が集  
い何度も訪れる  
居場所をつくる

おいしいカフェやマルシェがあ  
って、友だちや家族と過ごす  
場所をつくることで、多様な  
世代の人々が日常的に集い、訪  
れる人も楽しむことができる居  
場所づくりを目指します。

世界中で  
ここにしかない  
風景をつくる

開拓の歴史を想う山並みと疏水  
の記憶を辿る水の風景は那須塩  
原の原風景です。先人たちが土  
地と共に育んできた歴史を緑豊  
かな学びのフィールドとして駅  
前空間を再構築していきます。